

Ⅲ 家庭教育

家庭・学校・地域の役割などについて、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、家庭教育などに関する意識や実態について把握することにした。

調査の結果、子どもに「基本的な生活習慣」、「社会のルールやマナー」、「人を思いやる心」を身につけさせるのは、主に「家庭」と考えている人がいずれにおいても高い割合となっている。

また、学校において「確かな学力の定着」や「個性を伸ばす教育」、「いじめや不登校などへの対策」に「取り組んでいる」と回答している人の割合については、教員や学校評議員に比べて保護者は低くなっており、意識の差が見られる。

一方、家庭でのしつけや教育について、保護者の多くは、「ルールを守らせる」や「自分のことは自分でさせる」ことに気をつけていると回答し、3割以上の方が「家庭ではしつけや教育を十分に行っている」と回答しているのに比べ、教員、学校評議員の割合は低く、同様に意識の差が見られる。

なお、保護者の「教育に関する情報」は、「子どもの通う学校」よりも「保護者同士や身近な人」、「新聞やテレビ」などから得る方が多くなっている。

Ⅲ－１ 学校・家庭・地域での教育課題

学校・家庭・地域での教育課題について、教員、保護者、学校評議員に聞いたところ、学校における「確かな学力の定着」や「いじめ・不登校」などの教育課題について、教員は「取り組んでいる」とする回答の割合が高いのに対して、保護者は「そう思わない」との回答の割合が高い。

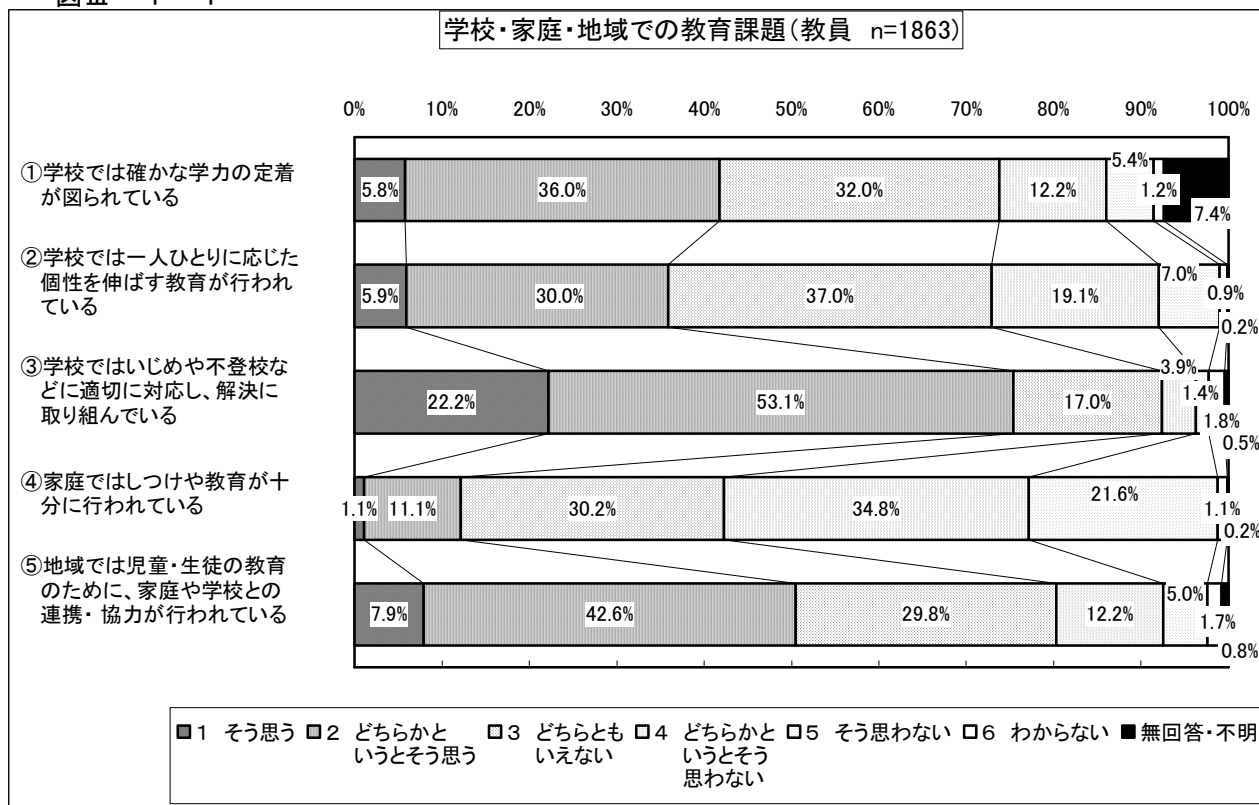
一方、家庭におけるしつけや教育について、保護者は「充分に行われている」とする回答の割合が高いのに対して、教員は「そう思わない」との回答の割合が高くなっており、教員と保護者がお互いの取組について異なった認識を持っている傾向が見られる。

具体的に「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計で見ると、教員では、「いじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」が75.3%と最も高く、次いで「確かな学力の定着が図られている」(41.8%)、「一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている」(35.9%)となっているのに対し、「家庭ではしつけや教育が行われている」は、12.2%と低くなっている。学校評議員についても、これと同様ということができる。

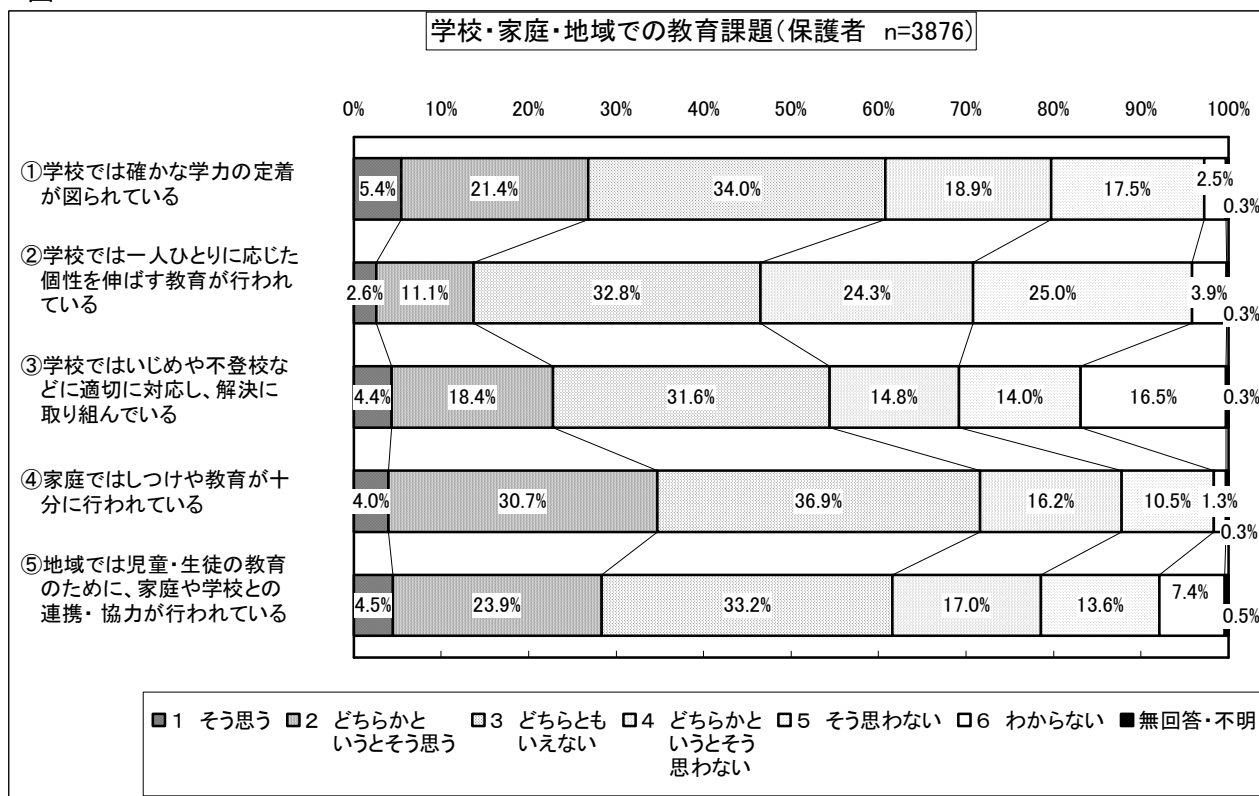
これに対し、保護者は、「家庭ではしつけや教育が行われている」が34.7%と最も高く、「確かな学力の定着が図られている」(26.8%)、「一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている」(13.7%)、「いじめや不登校などに適切に対応し、解決に取り組んでいる」(22.8%)という学校での取組については、教員や学校評議員よりも低くなっている。(図

Ⅲ－１－１～３参照)

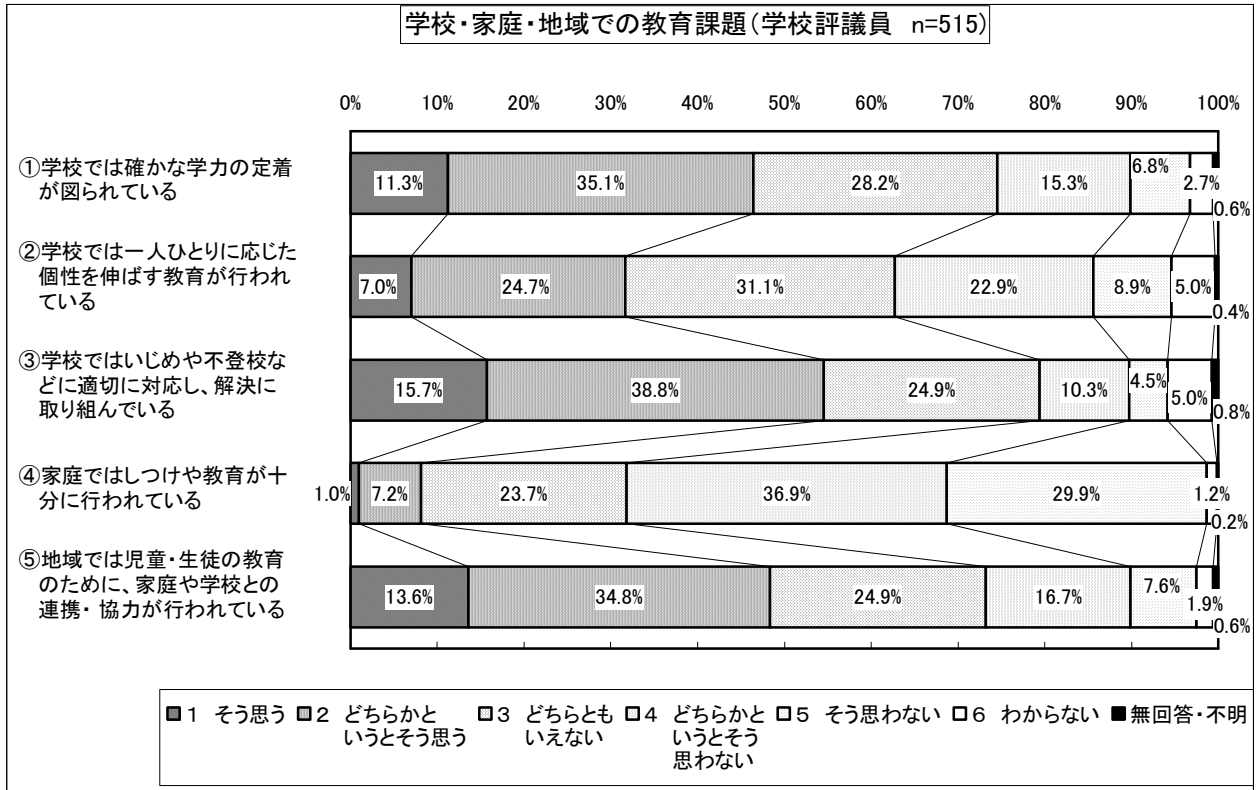
図Ⅲ－１－１



図Ⅲ－１－２



図Ⅲ－１－３



Ⅲ－２ 学校の役割・家庭の役割

教員、保護者、学校評議員に、それぞれの項目ごとに、「児童・生徒に身につけさせるのは、学校と家庭のどちらの役割か」をそれぞれの項目ごとに聞いたところ、三者とも、「家庭の役割」「学校の役割」と考える項目については大きな差異はなく、特に「基本的な生活習慣」については、三者とも100%に近い割合で「家庭の役割」と回答している。特徴的な点としては、「学校の役割」として教員の回答では、「学ぶ意欲や学習の習慣」の割合が最も高いのに対して、保護者と学校評議員の回答では「受験に必要な学力」が最も高い。

「主として家庭の役割」、「どちらかといえば家庭の役割」の合計が最も高いものは、「基本的な生活習慣」（教員 94.1%、保護者 98.2%、学校評議員 98.9%）である。

次いで高いのは、「人を思いやる心」（教員 66.1%、保護者 84.0%、学校評議員 81.3%）や、「社会のルールやマナー」（教員 67.0%、保護者 80.7%、学校評議員 78.7%）となっている。

また、「主として学校の役割」、「どちらかといえば学校の役割」の合計が高いものは、教員では、「学ぶ意欲や学習の習慣」（85.8%）、保護者、学校評議員では、「受験に必要な学力」（保護者 84.4%、学校評議員 90.1%）となっている。

次いで高いのは、「将来の職業に役立つ知識・技能」（教員 84.7%、保護者 79.0%、学校評議員 86.0%）や、「友だちをつくり、人間関係を築く力」（教員 84.1%、保護者 79.6%、学校評議員 82.3%）となっている。（表Ⅲ－２－１～２、図Ⅲ－２－１～３参照）

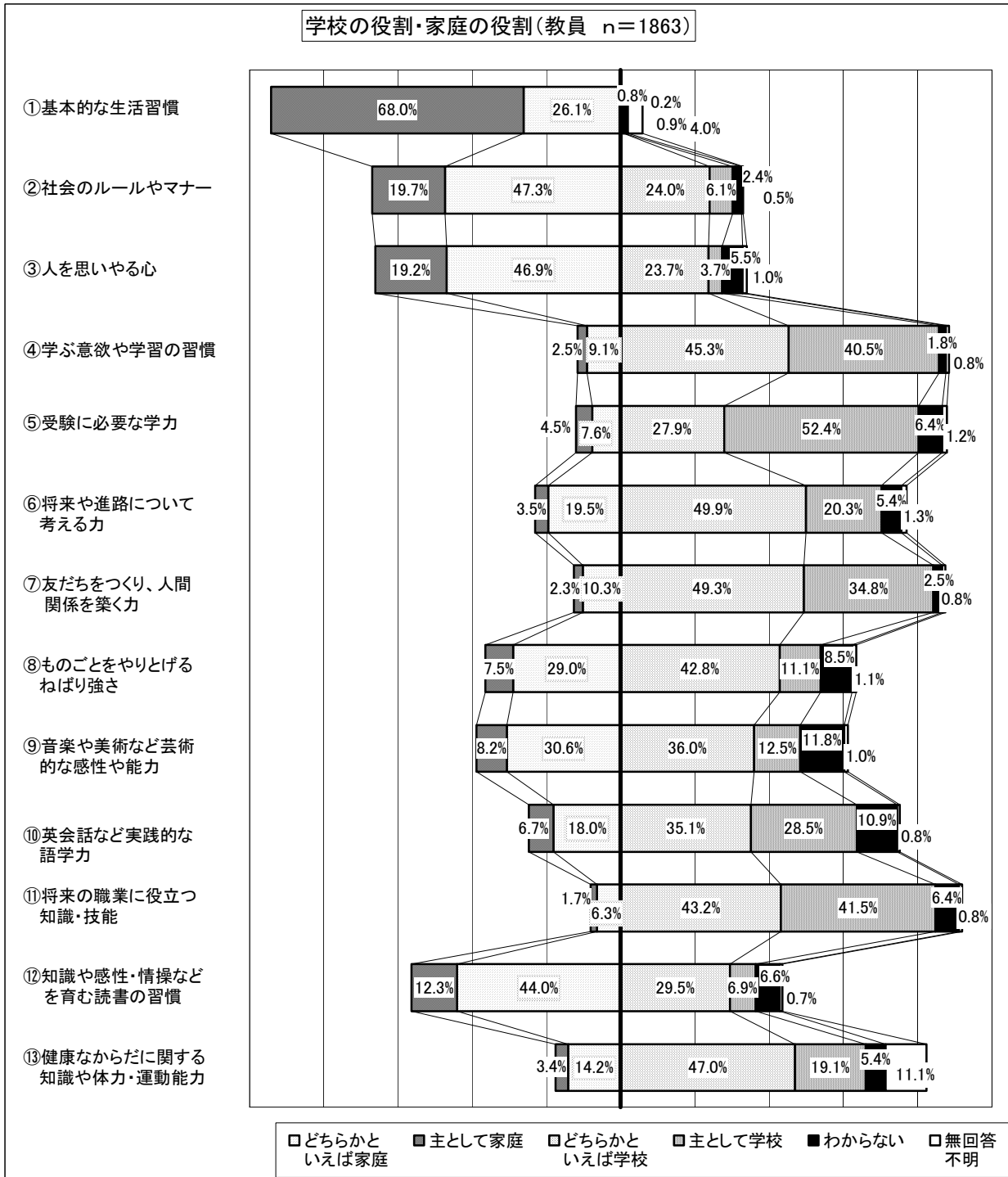
表Ⅲ－２－１ 主として（どちらかといえば）家庭の役割と考えるもの（上位４項目）

	教員	保護者	学校評議員
1位	基本的な生活習慣 (94.1%)	基本的な生活習慣 (98.2%)	基本的な生活習慣 (98.9%)
2位	社会のルールやマナー (67.0%)	人を思いやる心 (84.0%)	人を思いやる心 (81.3%)
3位	人を思いやる心 (66.1%)	社会のルールやマナー (80.7%)	社会のルールやマナー (78.7%)
4位	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 (56.3%)	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 (60.2%)	知識や感性・情操などを育む読書の習慣 (57.6%)

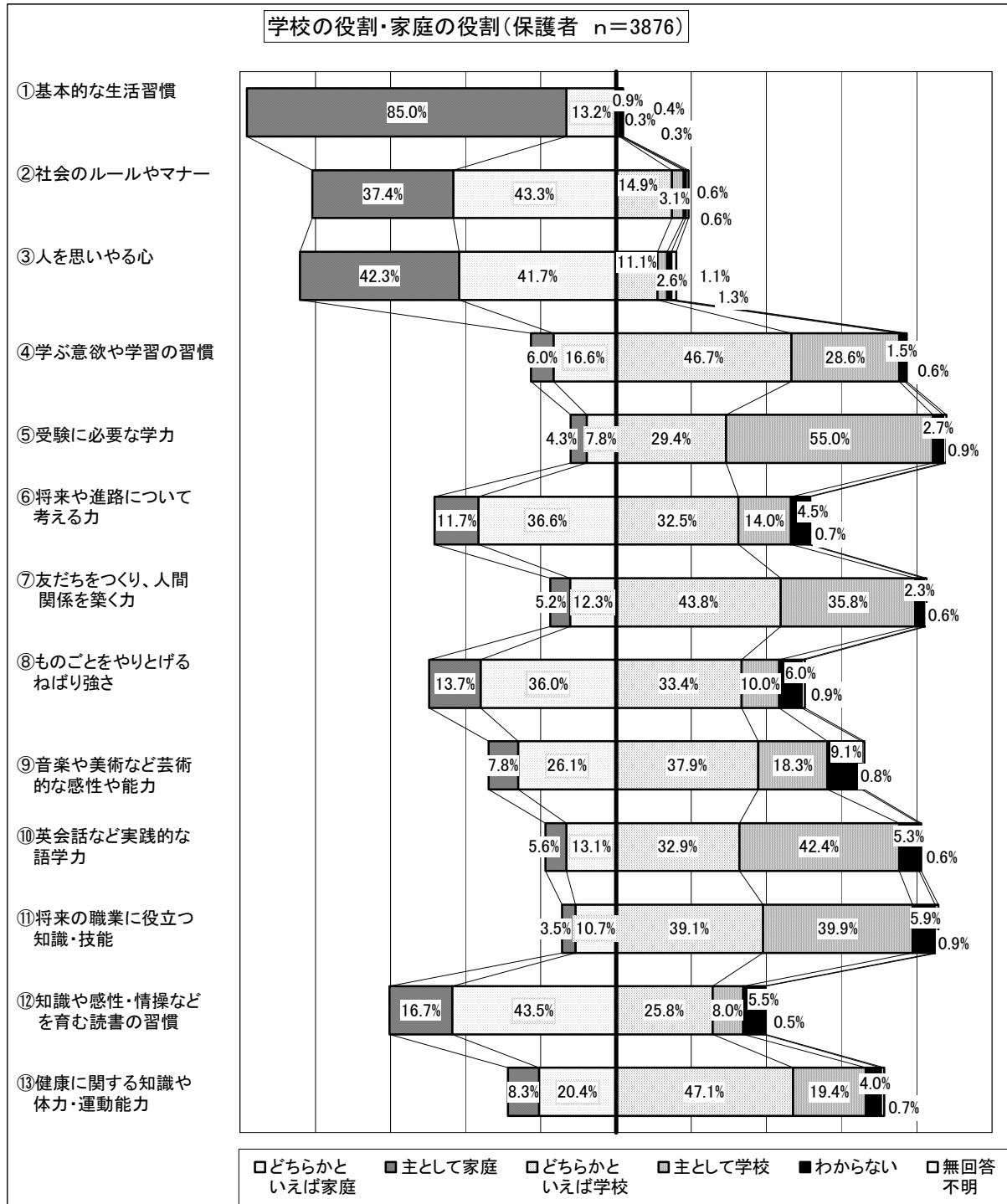
表Ⅲ－２－２ 主として（どちらかといえば）学校の役割と考えるもの（上位５項目）

	教員	保護者	学校評議員
1位	学ぶ意欲や学習の習慣 (85.8%)	受験に必要な学力 (84.4%)	受験に必要な学力 (90.1%)
2位	将来の職業に役立つ知識・技能 (84.7%)	友だちをつくり、人間関係を築く力 (79.6%)	将来の職業に役立つ知識・技能 (86.0%)
3位	友だちをつくり、人間関係を築く力 (84.1%)	将来の職業に役立つ知識・技能 (79.0%)	友だちをつくり、人間関係を築く力 (82.3%)
4位	受験に必要な学力 (80.3%)	学ぶ意欲や学習の習慣 (75.3%)	英会話など実践的な語学力 (81.2%)
5位	将来や進路について考える力 (70.2%)	英会話など実践的な語学力 (75.3%)	学ぶ意欲や学習の習慣 (79.8%)

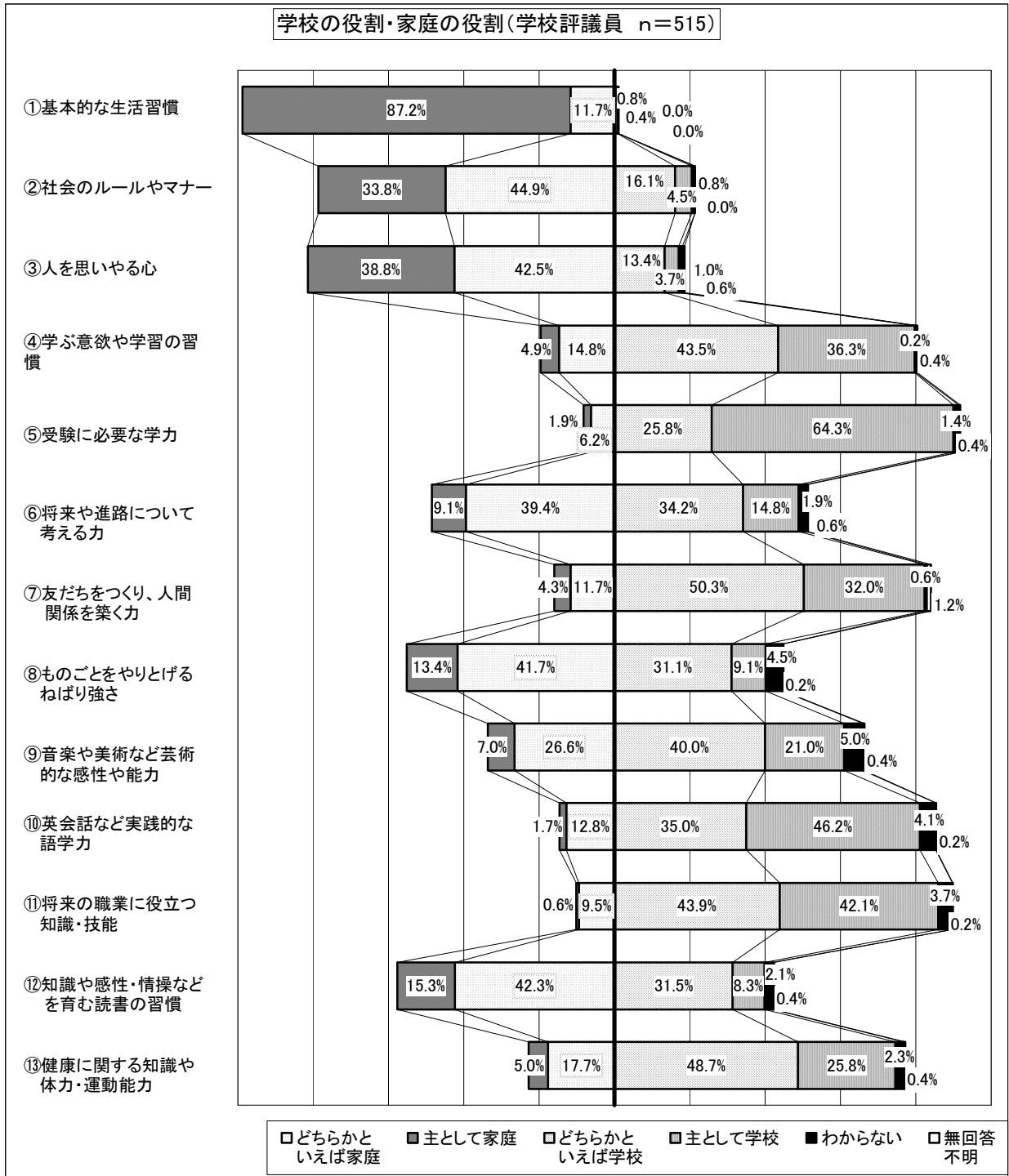
図Ⅲ－２－１



図Ⅲ－２－２



図Ⅲ－２－３



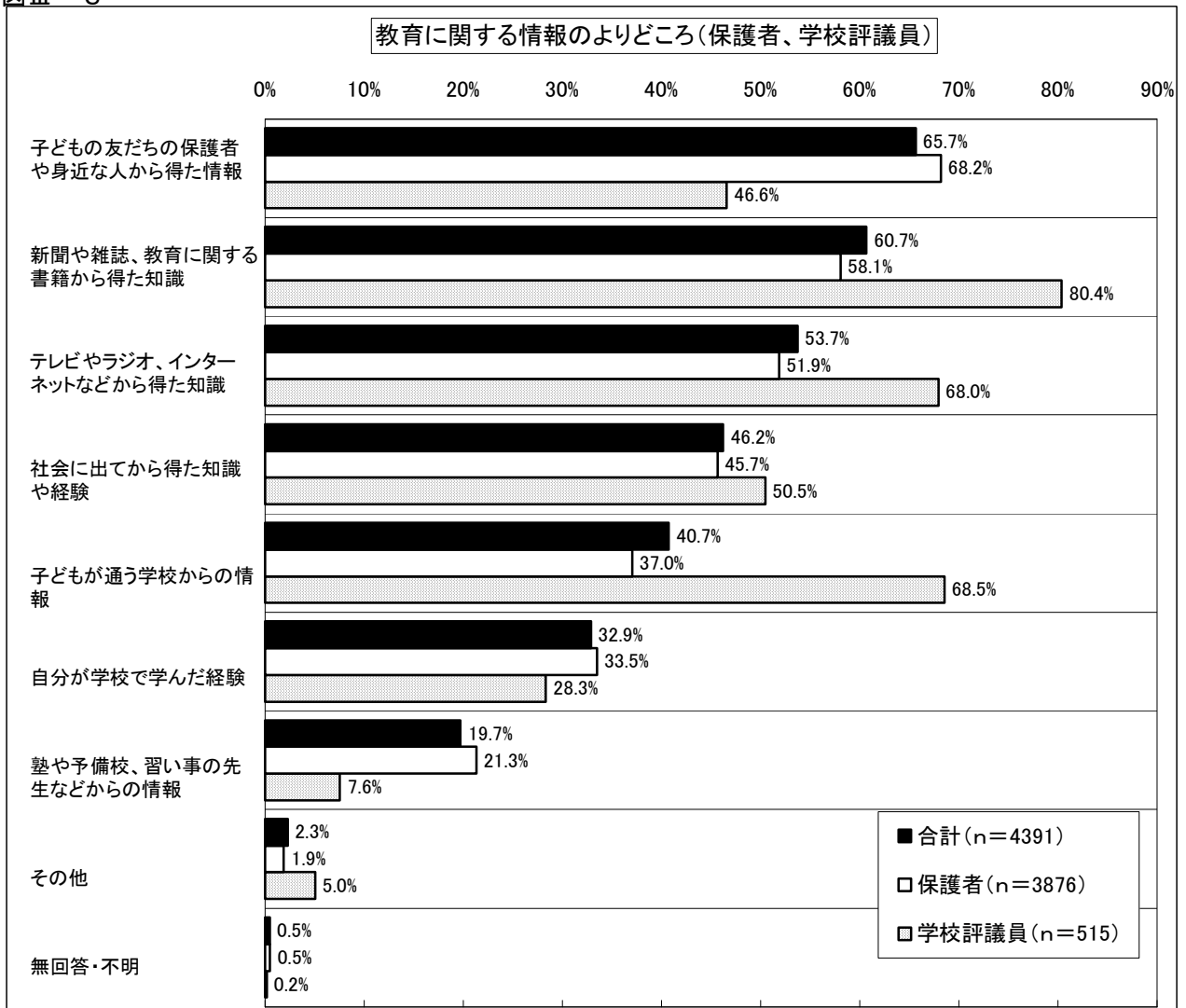
Ⅲ－３ 教育に関する情報のよりどころ

保護者、学校評議員に、「教育に関する情報のよりどころ」について聞いたところ、保護者は「子どもの友だちの保護者や身近な人からの得た情報」をよりどころとする回答の割合が7割弱と最も高く、次いで新聞や雑誌等、テレビやラジオなどから得る割合が高い一方、「子どもが通う学校からの情報」は比較的低い結果になっている。

学校評議員では、新聞や雑誌等が8割強と際立って高く、次いで、子どもの通う学校からの情報やテレビ・ラジオ等、インターネットなどから得た知識がいずれも7割弱で、いずれも高い傾向にある。

保護者は、「子どもの友だちの保護者や身近な人から得た情報」(68.2%)が最も多く、次いで「新聞や雑誌、教育に関する書籍から得た知識」(58.1%)であるのに対して、学校評議員では、「新聞や雑誌、教育に関する書籍から得た知識」(80.4%)が多く、次いで「子どもが通う学校からの情報」(68.5%)と異なっている。(図Ⅲ－３参照)

図Ⅲ－３



Ⅲ－４ 自分の子をどのくらい把握しているか

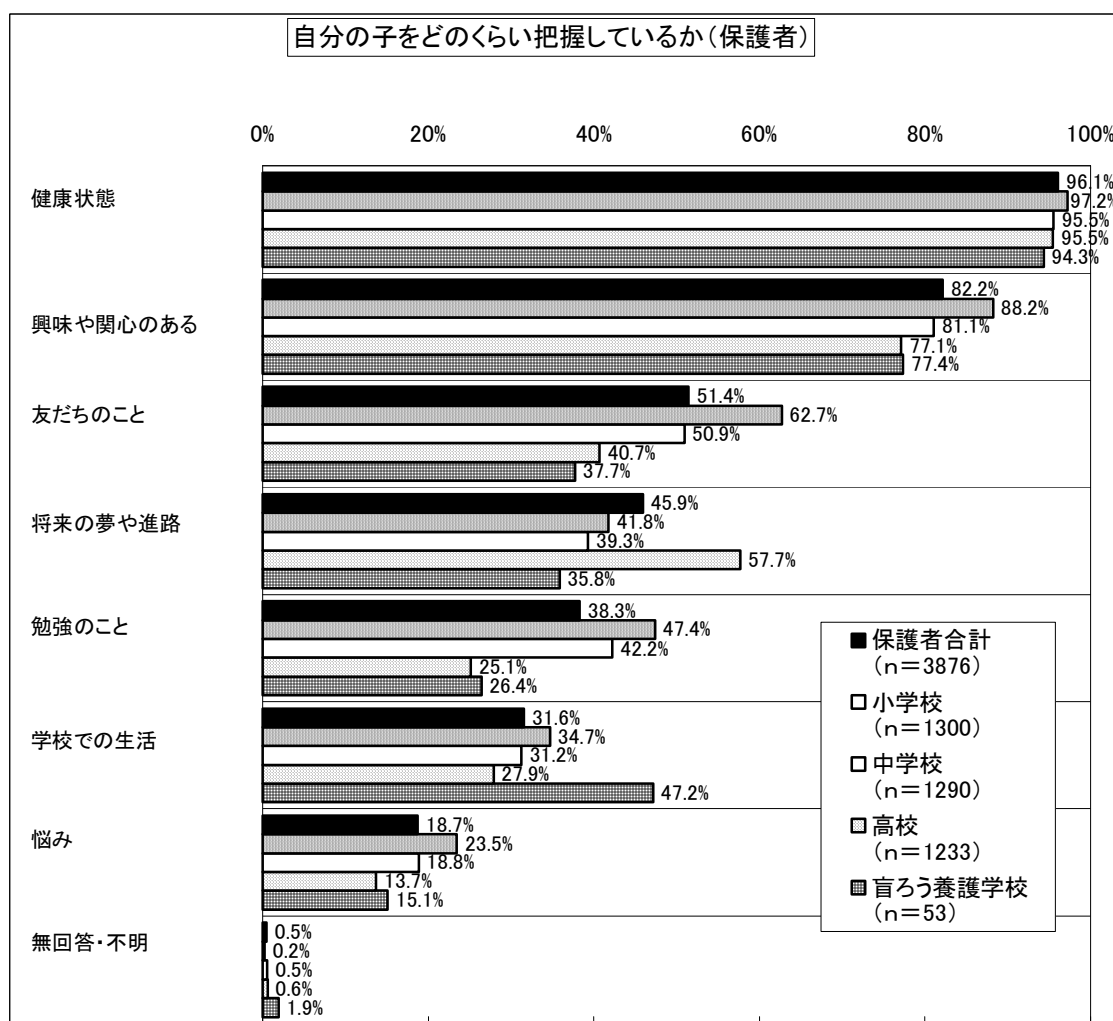
保護者に「自分の子をどのくらい把握しているか」について聞いたところ、保護者は子どもの年齢にかかわらず、自分の子の「健康状態」について、9割以上が、「興味や関心のあること」についても、8割前後が「把握している」と回答している。

他と比較して際立って割合が高いのは、小学生の保護者が「友だちのこと」、高校生の保護者が「将来の夢や進路」、盲・ろう・養護学校生の保護者が「学校での生活」となっている。

「健康状態」については、小学生の保護者(97.2%)、中学生の保護者(95.5%)、高校生の保護者(95.5%)、盲・ろう・養護学校生の保護者(94.3%)のいずれも90%以上の高い回答である。次いで、「興味や関心のあること」(82.2%)、「友だちのこと」(51.4%)、「将来の夢や進路」(45.9%)、「勉強のこと」(38.3%)の順に多くなっている。

他の対象者と比較すると、小学生の保護者が「友だちのこと」(62.7%)、高校生の保護者が「将来の夢や進路」(57.7%)、盲・ろう・養護学校生の保護者が「学校での生活」(47.2%)とそれぞれ高い割合であった。(図Ⅲ－４参照)

図Ⅲ－４



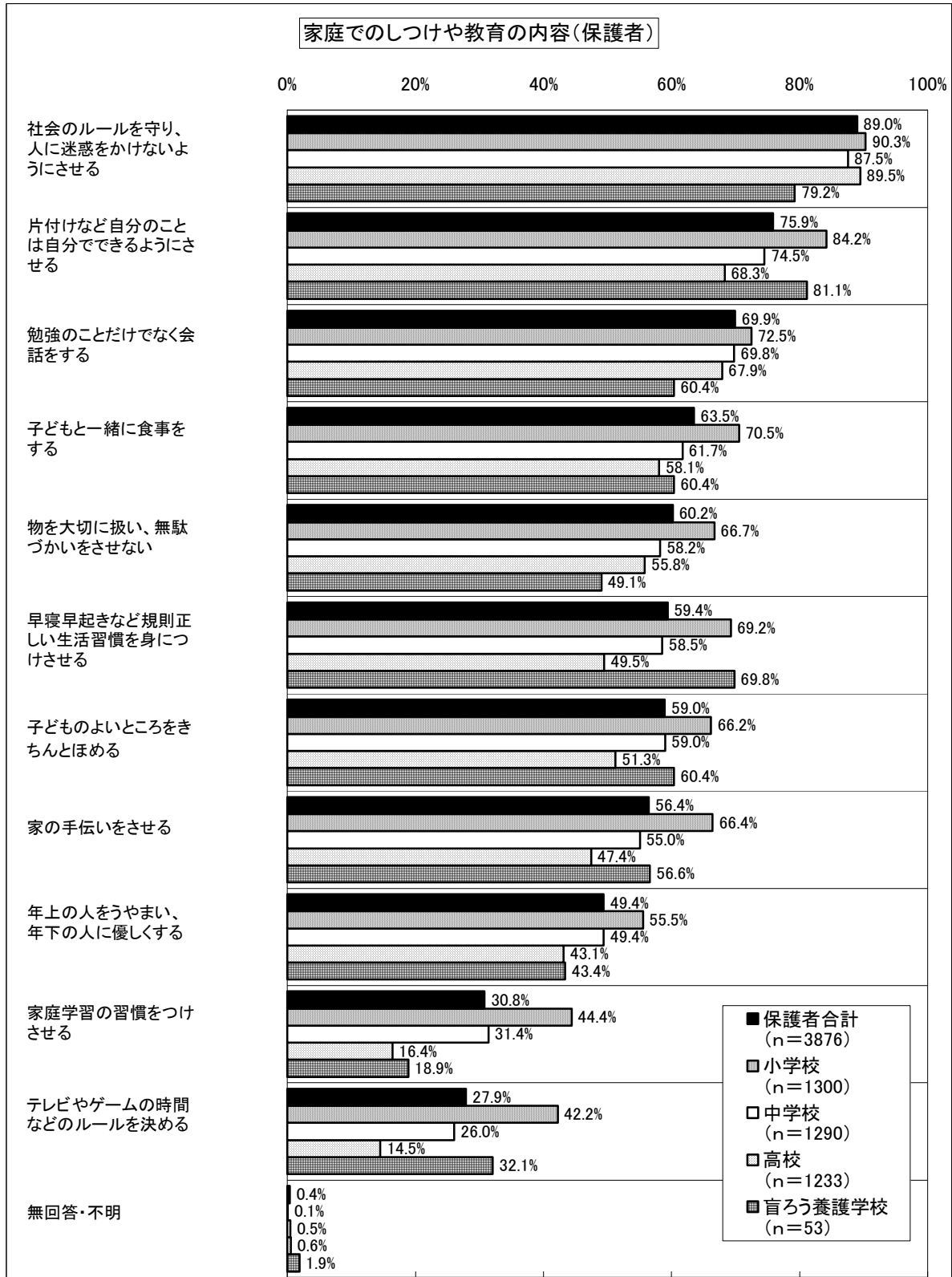
Ⅲ－５ 家庭でのしつけや教育の内容

保護者に「家庭でのしつけや教育について気をつけていると思うもの」について聞いたところ、全体的な傾向として、小学生や盲・ろう・養護学校生の保護者は、全ての項目にわたって、家庭でのしつけや教育の内容として「気をつけている」と回答している割合が高いが、中高と学校段階が上がるにつれ、その割合が下がる傾向にある。

小中高生の保護者とも、9割前後が「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」と回答しており、次いで「自分のことは自分でできるようにさせる」、「会話をする」、「一緒に食事をする」の割合が高い。

小中高生の保護者の回答では、1位から3位までが同じで、最も高いのが「社会のルールを守り、人に迷惑をかけないようにさせる」（小学生 90.3%、中学生 87.5%、高校生 89.5%）、次に「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」（小学生 84.2%、中学生 74.5%、高校生 68.3%）、その次に「勉強のことだけでなく会話をする」（小学生 72.5%、中学生 69.8%、高校生 67.9%）となっている。また、盲・ろう・養護学校生の保護者の回答で、最も高いのが「片付けなど自分のことは自分でできるようにさせる」（81.1%）、次に「社会のルールを守り、人に迷惑をかけさせないようにさせる」（79.2%）、その次が「早寝早起など規則正しい生活習慣を身につけさせる」（69.8%）となっている。（図Ⅲ－5参照）

図Ⅲ－５

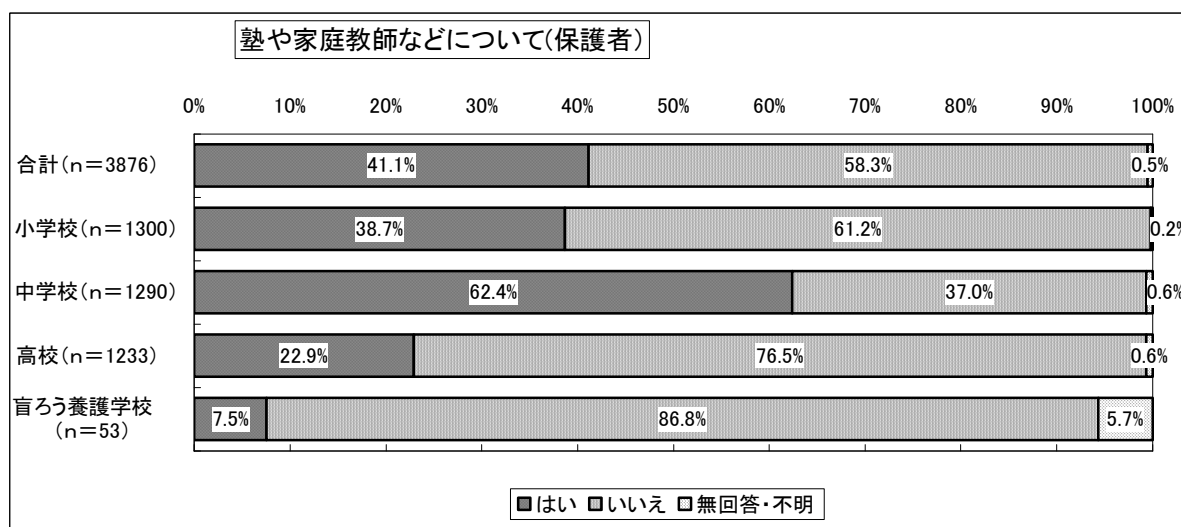


Ⅲ－6 塾や家庭教師について

保護者に「学習塾に行ったり、家庭教師に勉強をみてもらったりしているか」と聞いたところ、「はい」と回答した割合は、全体では4割強であり、中学生の保護者の回答が6割強と最も高く、次いで小学生の保護者が4割弱、高校生の保護者が2割強となっている。

具体的には、中学生が62.4%、次いで小学生が38.7%、高校生が22.9%、盲・ろう・養護学校生7.5%となっている。(図Ⅲ－6参照)

図Ⅲ－6



Ⅲ－７ 塾などに行かせる理由

※Ⅲ－６の「はい」の回答者のみ

Ⅲ－６で、「学習塾に行ったり、家庭教師に勉強をみてもらっている」と回答した保護者に、その理由を聞いたところ、全体として最も高い回答が、「子ども自身が望んだから」であるが、高校生の保護者では、「受験に役立てたいから」が最も高かった。

全体では、「子ども自身が望んだから」(28.4%)の割合が最も高く、次いで「受験に役立てたいから」(24.2%)、「自分からは勉強しないから」(22.1%)、「学校の授業についていけないから」(9.3%)の順になっている。

学校段階で見ると、小学生の保護者の回答が、「子ども自身が望んだから」(33.4%)が最も高いのに対し、中学生の保護者では、「自分からは勉強しないから」(25.5%)、高校生の保護者では、「受験に役立てたいから」(31.6%)がそれぞれ最も高くなっている。(図Ⅲ－７参照)

図Ⅲ－７

